

## 「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による  
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第2回: インドネシアとの関係の地平を広げる; 武器取引の可能性 2021年5月13日配信

### 【ポイント】

去る3月30日の第二回日インドネシア2+2(両国の外務大臣+防衛大臣の会合)では、防衛装備品・技術移転協定署名。これが実際の防衛装備品(武器)取引につながるかどうか、要注目。実現すれば両国関係に新たな地平を開くことになり、大きな意義。

### 【本文】

- 日本にとってインドネシアはなぜ重要か? 前インドネシア大使として手前味噌を一言
  - ・太平洋からインド洋に連なる日本のシーレーンのど真ん中に位置し、  
チョークポイントも多数所在。その安定は死活的に重要。
  - ・2050年までには日本のGDPを抜き世界4位(中・米・印の次)になる可能性。
  - ・世界四位の人口+2040年以降も人口ボーナス継続の稀少国(他はインド)。
  - ・2050年頃に新G7メンバーを選ぶなら当確(米中印+日、インドネシア、(EU、ロシア))。  
日本がその中で多数派を形成するためには、(インドと共に)どうしても近くに居てもらいたい国。
- 両国の経済関係緊密化は(アップ・ダウンはあるが)順調に進展。
  - ・2000弱の日本企業⇒700万人以上の雇用(公的経済雇用の1/8)、  
GDPの8.5%、輸出の1/4を創出。過去10年投資ネット累計は全体の30%(中国の6倍)
  - ・両国の経済関係は高い相互補完性
    - 人材育成の必要性⇔若い有能な人材の必要性
    - 輸出主導の経済成長(対GDP比インドネシア20%⇔タイ60%、ベトナム100%)⇔タイに次ぐ  
輸出基地が必要
  - ・重要インフラプロジェクトは、コロナにもかかわらず着々と進展
    - 3大プロジェクト(ジャカルタMRT(地下鉄)、パティンバン新港、ジャカルタ・スラバヤ鉄道高速化)

- 関係緊密化+地域の安定に今後一層必要なのは、安全保障上の協力強化。
  - ・従来から、海上保安組織(BAKAMLA)支援、離島開発、漁業監視船供与等が進行。
  
- 第二回日インドネシア2+2(3月30日@東京)で防衛装備品・技術移転協定に署名
  - ・日本が2+2をやっている南アジア諸国は、インドネシアとインドのみ。
  - ・この協定は第一回2+2会合(2015年12月@東京)以来の懸案。
    - 今回まとまった背景には、ここ数年の中国の「やりすぎ」があるのは明白。
    - それに加え、「具体的案件(ニーズ)」存在の可能性を示唆している。

↓

今後具体化するかどうか、要注目

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

---

問い合わせ先:りそな総合研究所 アジア室 石橋

メールアドレス:shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp